

は	取り立て助詞	提題助詞	係助詞	副助詞
①「は」は命題の中からガ格成分を主題として取り立てる。その提示された主題について、解説する。				
	田中さん 主題	は まだ来ていない。 解説	私 私	は が 先生です。 私に関して言うと、先生です。 先生です。 他の誰でもない、私が先生です。
②「は」は二つの事を主題と提示して、比較をする意味合いがある。主題と対比の「は」が同時に1つの文で用いられることはある。				
	日本 私 私 私	は は は は	夏だが、 肉 肉 肉	ブラジル は 嫌いだが、 嫌いだ。 嫌いだ。 魚 は 好きだ。 ：対比で他は好きだと含意 ：対比の意味は消える 複文の従属節で並列は「は」 複文の従属節で並列は「は」
③新情報と旧情報の原理：新情報の場合は「が」を使い。旧情報の場合は「は」を使う。				
	おじいさん	が	住んでいました。	おじいさん は 山へ芝刈りに行きました。
④現象文と判断文の原理：現象文には「が」判断文には「は」を使う				
	現象文： 判断文：	雨 桜	が は	降っている。 きれいだ
⑤文と節の原理：従属節の中は「が」文末までかかる主節の時は「は」を使う				
	彼女 私	が が	作ったケーキ 勉強していた時、父	は は 美味しかった。 部屋で寝ていた。
⑥対比と排他の原理：取り立てて「対比」を表すときは「は」で、「排他」を表すときは「が」を使う				
	ビール 彼女	は が	飲めますが、日本酒 留学生です。	は 飲めません。 従属節の中でも「は」が使える特例 逆接の「が」は従属節内に「です/ます」が使える。
⑦措定と指定の原理：措定文の場合は「は」を使い、「指定文」の場合は「は」か「が」を使う				
	クモ 田中さん 誰	は は が	害虫です。 誰ですか。 田中さんですか。	A=B とならないので措定文。 A=B となるのが指定文 「は」+疑問詞 / 疑問詞+「が」となるので注意。 措定文＝述語が主格名詞の性質を表す文 指定文＝主格名詞と述語名詞が同じものである。
□複数の原理が働く文章がある。				
	雨	は	降りますが、雪	は 降りません。 ※現象文「雨が降る」が「は」が並列で優先されている。
□文を超える「は」：話題になるものが主題化されると、「主題」+「解説」となり、文を超えて影響力を持つ。				
ラーメンはいいね。味の違いも楽しめるし、スープのバリエーションもある。店によって味も全然違うね。最近食べた？				

が	格助詞	動作の主体、好みの対象に使う。 従属節内の主語は「が」で表す。 他の格助詞とは共起しない。 接続詞「が」は逆接で、従属度が低く、自由度が高い。				
現象文	無題文 中立叙述：命題が表す事実を、話者がそのまま聞き手に伝える文。主題/トピックが無い。この文には「が」が使われる。 雨 が 降ってきた。 : 外に出た時 中立叙述の用法は「今、ここ」で話し手がとらえた「新しい情報」 風 が 冷たい。 : 窓を開けた時 有題文：主題がある。大阪のたこ焼きが美味しい。					
排他 総記	複数の選択肢の中から焦点となっている事柄を主語として選びその事実を聞き手に伝える。 「果物の中で何が一番好きですか」「ブドウが好きです」※たくさんある果物の中で、他にもない、ブドウこそがという意味を持つ 彼 が 留学生です。 ※他のクラスメートは留学生ではない。彼こそが留学生である。[取り立てている]					
主体のガ格	動きや状態の主体を表す用法。 馬が走る。馬がいる。 空が青い。 空が真っ暗だ。	接続詞の「が」 は逆接で従属度が低く、自由度/独立性が高い。 「雪が降っていますが、寒くないです。」主節の丁寧度を合わせる必要がある。				
は-が構文	「 対象のガ格 」感情/知覚/能力/可能/欲求で対象を表す「が」：言葉を引き立てる役目がある。「が」の前は主格でなく目的格である。 うちの猫 は 日本語 が わかる。 [能力] 山 が 見える [知覚] 海 が 好きだ [感情] 私 は 猫 が 好きだ。 [感情] 足 が 痛い [知覚] 海 が 怖い [感情] 彼 は 日本語 が 話せる。 [可能] 水 が/を 飲みたい。 [欲求] 他動詞 動詞+たい=が/をの両方使える。					
は-が構文	主語抹殺論 「は」は主題：トピックを表し、「 ガ格 」が 主格 を表す。「が」の前が主格になっている。 象 は 鼻 が 長い 母 が セーターを編んでくれた。このセーター は 母 が 編んでくれた。 焼き鮭 は 皮 が 美味しい 彼は京都で生まれた。京都 は 彼 が 生まれた町田。					
対比の「が」	夏は涼しい が 、冬は暖かい。 夏は涼しくて、冬は暖かい。(テ形交代) 逆接条件 ：勉強した が 、合格できなかった。因果関係で対比とは違う					
前置きの「が」	つまらない物です が 収めてください。 □ほかの格助詞とは共起しない。					
□がの可変	従属節内の主体「が」を「の」に置き換えることが可能。 私 が/の 作ったケーキは美味しい。雪 が/の 降る夜。 彼 と * が 親友である。(非文) 彼 と は 親友である。「は」は格助詞と共起できる					
取り立て原理	文と節の原理	現象文と判断文の原理	新情報と旧情報の原理	指定と指定の原理	は・が 例文	
主題がある	主題を持てる (主節)	主題を持つ=判断文	述語が主題	主題を明示 指定位文	は クモ は 害虫です。	
		格成分が主題：新情報	主題を暗示 指定位文	が 誰 が 田中さんですか。		
		主題を持たない=現象文	が おじいさん が いました。			
	主題を持たない (従属節)	が 雨 が 降っています。				
取り立て				対比	は お肉 は 好きだが、魚 は 嫌い。	
				排他	が 彼女 が 留学生です。	

格	文中で 名詞の後に 置かれて、その名詞相当句と 述語との関係 を表す標識。	
<p>格形式は文法概念とは必ずしも一致はしない。</p> <p>「私は 水が 飲みたい。」 ガ格だけど、主語を表しているとは言えない。</p> <p>「私は 公園を 散歩した。」 ヲ格だけど、目的語を表しているとは言えない</p> <p>格の表示 = ヴォイス（態）が変わることによって、「格の表示」が変化する。</p> <p>「赤ん坊が 泣く」 能動態 ガ格表示</p> <p>「赤ん坊に 泣かれる」 受動態 二格表示</p> <p>動詞の格支配 = 動詞の語彙の意味に応じて必要な格成分を選択的に要求する働き。</p> <p>「角館 に 武家屋敷 が ある」 「二格+ガ格」 = 状態動詞</p> <p>「角館 で 花火大会 が ある」 「デ格+ガ格」 = 非状態動詞（動作動詞）</p>	格助詞	<p>補足語が述語に対してどのような関係にあるか表す助詞。9種類</p> <p>が を に へ と で から まで より の/や（学校文法）</p> <p>日本語文法とは、格のとらえ方が異なる。</p> <p>「まで」は日本語教育では格助詞、学校文法では格助詞ではない。</p> <p>6時まで一待つ。 = 用言を修飾しているので格助詞として扱う。</p> <p>「の」は日本語教育では格助詞でない。学校文法では格助詞扱い。</p> <p>料理の本：述語と関係を持たない/私のだ：実質名詞、まとめにくい。</p> <p>「や」は日本語教育では格助詞でない。学校文法では格助詞扱い。</p> <p>「牛や馬」名詞をつなぐもので、述語とは関係を持たない。並立助詞</p>

を	格助詞 ヲ格	他動詞を伴って「動作の対象」を表すヲ格。		
		移動の「経路」「起点」などを表す。移動動詞は「自動詞」に分類される。		
対象のヲ格	<p>橋 を 作る。</p> <p>家 を 探す。 他動詞</p> <p>湯 を 沸かす。</p>	生産動詞 = 産出動詞：結果目的語：「作る/生産する/建てる/編む/書く」		
通過 経路のヲ格	<p>自分が移動：歩く/走る/抜ける：経路重視</p> <p>橋 を 渡る。 自動詞</p> <p>公園 を 散歩する。</p>	<p>ピザ を 焼く。 生地を焼いたらピザになる。</p> <p>家 を 建てる。 木材を建てたら家になる。</p> <p>湯 を 沸かす。 水を沸かせてお湯にする。</p> <p>穴 を 掘る。 地面を掘ったら穴になる。</p>	結果目的語にならない動詞。：「割る/落とす/蹴る/破く」	
起点のヲ格	<p>自分が移動：出発/離れる：起点重視</p> <p>家 を 出る。 自動詞</p> <p>大学 を 卒業する。</p>	<p>お皿 を 割る 割ってもお皿にならない。他動詞+目的語</p> <p>本 を 破く 破いても本にならない。他動詞+目的語</p> <p>食パン を 焼く。 焼いても食パンにならない。他動詞+目的語</p>		

に	二格	存在の場所、動作の到達点、時、目的など多岐に表す格助詞。 場所の「に」は存在に重点を置き、場所の格助詞「で」は動作に重点がある。	
帰着点の二格	成田 に 着く。 大学 に 入学する。	学校に行く。 車に乗る 家に向かう	基準の二格 母 に 似ている。 子供 に は無理だ。
場所の二格	机の上 に 本がある。	存在を表す	原因の二格 酒 に 酔う。
	家 に 猫がいる。	「いる」「ある」	目的の二格 買い物 に 出掛ける。 行為目的名詞「二格」 アルバイト に 行く。 行為目的名詞「二格」 面接 に 行く。 行為目的名詞「二格」 食べ に 行きます。 動詞マス形「二格」 映画を見 に 行きます。 スキーをしに行く。
	銀行 に 務める。	「住む」「務める」	
	ホテル に 泊まる。	「泊まる」に限定	
	田舎 に 住む。	「に」は存在に重点	
田舎 で 暮らす。	「で」は動作に重点		
動作の相手の二格	弁護士 に 相談する。	相談する。 プレゼントをあげた。	時点の二格 5時 に 起きます。
	友達 に プレゼントをあげた。		動作主を示す二格 父 に 教えてもらう。 猫 に 笑われる。
変化の結果の二格	信号が赤 に なる。		
源を表す二格 授受/受身	友達 に もらう。	からに言い換え可能	可能形の動作主 あいつ に ピアノが弾けるわけない。 私 に それが出来ない理由がある。
	先生 に 叱られる。	からに言い換え可能	

へ	へ格	へ格は方向・目的地を表す。帰着点を示す「二格」に対して「へ格」は方向を重視する。 「前へ突き進む」「*前に突き進む」「関税、撤廃の方向へ」「*関税、撤廃の方向に」「に」だと不自然	
方向	船が北 へ 向かった 母 へ 手紙を書く：方向性に重点を置く = 母への手紙。 母 に 手紙を書く：帰着点に重点を置く = *母にの手紙 学校 へ の道。 学校 に の道。 非文：二格だと不自然		□基本「へ格」と「二格」は言い換えできることが多く 実際二格のほうが多い

と	ト格	共同作業の相手は任意で、対称的関係における相互動作の相手を表す。対称的関係とは2者のどちら側から見ても音字自体が成立することで、「AがBと/BがAと」と入れ替えが可能。		
共同動作の相手 (任意)		比較の対象	昔	と 違って
娘が母	と ケーキを作る。		以前	と 違って
ポチ	と 散歩する。	帳簿	と 照合する。	
相互動作の相手 (必須) 相互動詞:話す/会う/握手する/連絡する/協力する		変化の結果	やがて雪	と なった。
「と」は双方向的：対称的関係で2者のどちら側からみても同じ事態が成立		思考・伝達の内容 (引用)	この映画は素晴らしい	と 思う。
太郎が花子	と 結婚する 花子が太郎と結婚する。	接続助詞の「と」	夏になる	と 蝉が鳴く。 節と節を接続する
太郎が花子	と 喧嘩する 花子が太郎と喧嘩する。	並列助詞の「と」	牛乳	と 卵が必要だ。全部列挙
太郎が花子	と 別れる。 花子が太郎と別れる。	共同作業の相手は、「と一緒に」に書き換えが可能 娘が母と一緒にケーキを作る。ポチと一緒に散歩する。 相互動詞は「と一緒に」に書き換えができない *太郎が花子と一緒に結婚する。 *太郎が花子と一緒に喧嘩する。		
「に」は一方方向：対象を表す。				
太郎が花子	に 会う 太郎が花子と会う			
太郎が花子	に 約束する 太郎が花子と約束する。			
太郎が花子	に 相談する、 太郎が花子と相談する。			

で	デ格	動作・作用の行われる場所。道具、手段、材料、原因、様態、期限、限度、動作主などを表す格助詞		
動作の場所	庭	で	遊ぶ。	成立する範囲
道具	ハサミ	で	切る。	
手段	鉄板	で	焼く。 船で行く。	動作の主体
材料	木	で	作る。	みんな
原因	風邪	で	休む。 地震で電車が止まる。	合計
様態	土足	で	あがる。 裸で歩く。	全部
期限	1週間	で	治す。 1時間で終わる。	数量
限度	30人	で	締め切る。	一人
ナ形容詞 な→で				
断定助動詞 だ→で				
		場所を表す「を」	通過起点	公園を歩く。近所を散歩する
		場所を表す「に」	存在場所	大阪に住む。 銀行に勤める。
		場所を表す「で」	動作場所	公園で遊ぶ。

から	カラ格	移動の起点。時の起点。受け取り動作の相手（出所） 出来事の発端の原因、判断の根拠 原料、構成などを表す。主体としても働くことがある。						
起点	場所起点	家	から	歩いて行った。	原料・構成	米	から	酒を造る。
	時間起点	7時	から	営業する。		衆参2院	から	なる議会制度。
	出所起点	友達	から	頼まれる。 [二格]に交代可能	主体	私	から	彼に伝えます。 [が格]に交代可能
原因・根拠	不注意		から	大惨事になる。		私	から	連絡します。
	資金不足		から	計画を断念する。	理由でないカラ格	新聞、テーブルの上にある から とって。		
	忙しい		から	行きません。				

まで	マデ格	格助詞の用法 取り立て助詞の用法	時間的、場所的な「到達点」や「限度」を表す 極端な例示				
到達点	東京から大阪	まで	1時間かかる。	取り立て助詞 極端な例示	子供 に	まで	笑われる。
限度/期限	シャボン玉が屋根	まで	飛んだ。		風で屋根	まで	が飛んだ。 事態の甚だしさ
	5時	まで	に仕事を終える。				

より	ヨリ格	比較の基準 動作の起点を表す：「から」より改まった文語的表現		
比較の基準	去年	より	寒い	
	姉	より	妹のほうが背が高い。	
起点	未明	より	雪が降り始めた	未明から雪が降り始めた
	これ	より	開会式を行います。	これから開会式を行います。

の	従属節内の主体「が」を「の」に置き換えることが可能。日本語教育では格助詞ではない。学校文法では格助詞		
主体の用法	私 が/の 作ったケーキは美味しい。	私 の 本	連体修飾「N+N」：述語との関係を持たない それは私 の です。 [準連体助詞]
	雪 が/の 降る夜。	カナダ から の 手紙	格助詞に接続することができる
		ジョニー へ の 伝言	格助詞に接続することができる

複合格助詞	格助詞のように、述語との関係を表し、文の成分に近い働きをする。普通体と丁寧体がある。		
形式が固定された複合格助詞		複合格助詞には普通体と丁寧体がある。	
格助詞 + 動詞のテ形	「～について」	動きの対象 「将来の夢について語る」	で 普通体 本日 をもって 普通体 閉店いたします。 をもちまして 丁寧体 この件につきましては、来週に持ち越します。 政治に関しましては、私はわかりません。 この国にとりましては、良いことだと思います。
	「～に関して」	動きの対象 「政治に関して講演する」	
格助詞 + 動詞 + 格助詞 の + 名詞 + 格助詞	「～に対して」	動きの対象 「彼の主張に対して反論が出た」	論文のタイトルなどにもよく使われる。 中級以降、アカデミックジャパニーズで重要になる。 「謝罪表現における日中比較」 「子供の運動能力に関する研究」
	「～にとって」	視点立場 「彼女にとって最良の日となった」	
	「～において」	動きの場所 「会議室において説明が行われる」	
	「～によって」	受身動作主 「有名な画家によって描かれた」	
	「～として」	手段方法 「何度も読むことによって覚える」	
	「～と一緒に」	動きの相手 「友達と一緒に食事する」	
	「のために」	動きの目的 「試験のために勉強する。」	

並立助詞	複数の名詞などを対等な関係で並べて表す。名詞と名詞 名詞や名詞 名詞とか名詞 名詞なり名詞 名詞か名詞	
全部列挙	「と」 牛乳 と 卵 が必要だ。	学習者の誤用：並列節には「テ形」が使われる。 並列助詞は名詞以外はつながない。 部屋は 広いと 静かです。 × 非文 部屋は 広くて 静かです。 ○ 部屋は 遠いや 狭いです。 × 非文 部屋は 遠くて 狭いです。 ○
一部列挙	「や」 牛乳 や 卵 が必要だ。 「とか」 牛乳 とか 卵 とか が必要だ。 「だの」 空き缶 だの 紙屑 だの が落ちている。	
選択列挙	「なり」 電話 なり メール なり で返事を下さい。 「か」 行く か 行かない か 連絡ください。	

無助詞化			
無助詞化できる	ガ格 ヲ格	私 が やりますよ。 この本 を 読んだ？	私、やりますよ。(○) この本読んだ？(○)
無助詞化できることもある	ニ格	本屋 に 行くの？ 本を彼 に もらった	本屋行くの？(○) 着点を表す倍は無助詞化できるが、 本を彼もらった(×) 相手を表すときは無助詞化できない。
無助詞化できない	ト格 デ格 カラ格	彼女 と 結婚する。 自転車 で 帰った。 駅 から 歩いて帰った。	彼女結婚する(×) 自転車帰った。(×) 駅歩いて帰った。(×)

会話における助詞	普通体による会話の特徴
「が」「を」「に」「へ」などの格助詞は会話で省略されやすい。	
<input type="checkbox"/> 「が」「を」は強い格助詞で省略されやすい。 「が」 水が飲みたい。 水飲みたい。水飲みたい。 「を」 パスタを食べたい。 パスタ食べなパスタ食べたい。 <input type="checkbox"/> 「に」「へ」は中程度の格助詞で省略されたりされなかつたりする。 「に」 学校に行く 学校行く。 「へ」 学校へ行く 学校行く。	<input type="checkbox"/> 弱い格助詞は省略できない 「と」 友達と遊ぶ。 友達遊ぶ(×) 「で」 自転車で行く。 自転車行く(×) 「から」 東京から来る。 東京来る(×) 「まで」 公園まで歩く。 公園歩く(×) 「より」 兄は弟より背が高い 兄は弟背が高い(×)
名詞とナ形容詞の否定形で「では」は「じゃ」になる。	終止形で終わらず、終助詞が付くことが多い。
私がやった の では ありません。 私がやった ん じゃ ありません。	私も食べたい。 私も食べたいよ。 これ面白い。 これ面白いね。
終助詞「か」を使った疑問文は男性が使うことが多い。	
これ食べる か？ 男性的 一緒に来る か？ 男性的 これ食べる ㄋ 女性的 一緒に来る ㄋ 女性的	